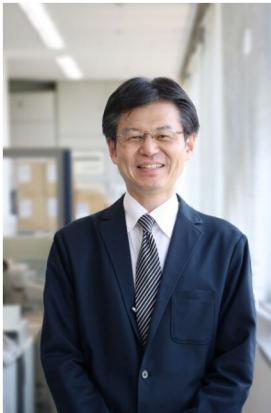




金印

【Suzukake】

懸



新入生のみなさんへ

学校長 齋藤 智文

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本校は1928年に、八王子市内で写真館を営んでいた市川英作先生を中心とした地元有志の方々によって設立されました。開校時の名称を、多摩勤労中学といいます。その名の通り、「勤労を尊び他人（ひと）のために汗を流すことを厭わず、世の中で使える学問を身に付けた青年を多摩の地域に育てること」を目指していました。午前中は教室で教科の授業を受け、午後は作業服に着替えて畠で勤労実習を行うという、独特な教育を行なう学校でした。しかし、当初はなかなか入学者が増えず、経営面でも非常に苦しい時期が続きました。その後、紆余曲折を経て、1935年に専門学校や大学への進学を目指せる「八王子中学校」として再出発することとなりました。当時を知る方の言葉を借りれば、「日本一貧しい、日本一小さな中学校」でした。そうしたときあっても、創立者の市川英作先生は、こんな言葉を口にされていたそうです。



『八王子中学校 小なりと雖も 誓って天下の根幹とならむ』

「八王子中学校（現在の中学校と高等学校を合わせた5年制の旧制中学校のことです）は、今は小さな学校であるけれども、いつの日か世の中を支える太い柱となってみせる」という意味です。

新入生の皆さんには、この市川先生の決意を胸に、6年間もしくは3年間に及ぶ自分磨きの日々を送ってほしいと、切に願っています。

こうした創立者の熱意のもと、私が、中学生のみなさんに伝えたいことは、「自分のためだけでなく、他人のためにも学ぶ」ということです。

皆さんは、中学受験を経験してきました。受験を突破するための勉強は、自分のための勉強です。でもこれから始まる6年間の学びは、将来目指している職業につながっていく学びなのです。皆さんは、これから学びを、他人のため、社会のために生かせる学びにすることを忘れないでほしいと思います。

次に、高校生の皆さんへの言葉です。それは、「記憶力より構想力」ということです。

情報処理技術が発達した現代にあって、人間が記憶できる情報量は、おそらく機械には敵わないでしょう。では、人間ができるることは何でしょうか。それは「構想力」だと思います。まったく関係がないと思われていた情報同士をつなぎ合わせることで、新しい結論を導き出せるのは人間にしかできないことです。例えば、「大陸移動説」で有名なドイツの気象学者ウェーベナーは、その著書『大陸と海洋の起源』の中で、かつて地球上の大陸は一つであったとする根拠を200前後挙げています。でも、そのほとんどはかつて別の研究者たちが導き出したデータなのです。彼は、それまで関係ないと思われていたデータを再構成することで、まったく新しい研究成果を挙げたわけです。高校生となる皆さん、さらに視野を広げ、独自の構想力で新たな世界や作品を作り出せる人に成長してくれることを願ってやみません。



各学年主任からのメッセージ

初めの一歩



中学1学年主任 橋本 順子 先生

入学してから約1か月がたちました。中学校での生活にも少しあは慣れてきたでしょうか。中学では授業ごとに担当の先生が変わるため、毎日の朝礼で担任の先生からの連絡事項をしっかりと聞くことが非常に大切です。中学生としての自立の第一歩として、まずは人の話に耳を傾け、自分が今すべきことをしっかりと認識して行動できるようになって欲しいと思っています。授業に部活動に委員会、それぞれ続けていくほどに新たな発見があります。時にはやることが多くて戸迷うこともあるかもしれません、そんな時にみなさんにとって頼りになるのが先輩たちの存在です。八王子学園には素晴らしい先輩たちが大勢います。何から始めたらよいか分からない状態から一歩踏み出していくためには、まずは自分たちから見て立派だなと思える先輩を頼りにしてみましょう。きっと中学校生活における大切なヒントを教えてくれるはずです。この一年間がそれぞれにとって充実したものになることを願っています。

目的に見合った行動を



中学2学年主任 谷口 明博 先生

昨年度は初めてのことばかりで、とまどったりといったことも多かったかと思いますが、中学校生活も2年目ですのでだいぶ効率よく行動できるようになったのではないでしょうか。ここで「効率」という言葉を使いましたが何を目的とするかで実際の行動はかなり変わってきます。極端なたとえですが「宿題を期日に出す」ことだけを目的とするのであれば「答えを丸写しして提出する」というのが一番効率的なやり方かもしれません。しかし「宿題をとおして学力をつける」のが目的であればそのやり方は非効率どころか何の効果も得られない無駄なやり方になります。学校生活では日々の忙しさ、あるいは楽しさに流されて本当の目的は見失われがちです。何のためにわざわざ中学受験をして入学してきたのか。何のために毎日学校に通っているのか。みなさん自身がここで学校生活を送る目的を再認識し、その目的を達成するための最も効率的な行動を心がけてもらえばと思います。

最後にして最高に楽しい一年を



中学3学年主任 岡野 道雄 先生

中学校生活最後の年が始まりました。中1は、周りを見ながら行動する「模倣」の学年。中2は、自分のやり方を確立させるための「模索」の学年。そして、中3は、中学校の最高学年として、自覚を持って行動し、下級生たちを引っ張っていく「模範」の学年です。運動会、学園祭、合唱コンクール、探究ゼミなどの様々な場面で下級生のお手本となり、「八学での充実した学校生活の送り方」を全身で示すことができる、頼もしい存在になってほしいと思います。また、学習面では、高校への橋渡しとなる大切な学年です。高校の授業は、どの科目も高度な内容を扱い、難度も上がりますが、その内容を理解し吸収するための土台となるのは、間違いなく中学の学習内容なのです。摘み残しがないように、丁寧な学習を心がけて高校の勉強に備えてほしいと思います。「うん！楽しかった！」と笑って話せる思い出をたくさん作って、3月19日を迎えるよう願っています。

勝負どころ

高校1学年主任 多比羅 拓 先生

古くから勝負に関する名言は数多く残されています。プロ野球の監督を務めた野村克也の「勝ちに不思議の勝ちあり。負けに不思議の負けなし」。これは松浦静山の『常静子剣談』が出典です。静山は肥前国平戸藩の藩主で、剣術の名手でもありました。この「勝ちに不思議の勝ちあり」は「勝ちとは不思議ものである」という意味ではありません。「（負けに不思議な負け方はないが）勝ちには不思議な勝ちもある」ということ。では「不思議ではない勝ち」とはどういうものなのでしょうか。以前こんな記事を読みました。プロボクサーの辰吉丈一郎が井上尚弥を称した言葉です。「尚弥君は自分がチャンピオンになる、自分がこういう人間になると、はなから知つた。知つたから用意ができとつた。みんなチャンピオンになりたいチャンピオンになりたいと言うけど“なりたい”じゃなられへん。自分も同じ経験をしとるけど、“なる”からやってるんよ」(デイリースポーツonline/2022.6.15)。そのときは「発想が違うんだな」程度でした。ところが先日、「勝者はまず勝ちてしかる後に戦いを求む。敗者はまず戦いてしかる後に勝ちを求む」という言葉を耳にし、「そうだったのか」と目から鱗が落ちる感覚がしました。ちなみにこれは中国の古典的な兵法書『孫子』のものでした。もちろん人生すべてが勝ち負けではありません。ただ勝負する局面は必ず来ます。僕にも僕なりの勝負どころがあります。みなさんもひとりひとり勝負どころをイメージし、「戦った後に勝ちを求める」ような戦いをしないでどうするべきか、一緒に考えていきましょう。



成長の時

高校2学年主任 新井 武広 先生

ここにちは、高校2年生の皆さん。皆さんは新しい学年を迎え、より一層成長するためのチャンスを手に入れました。これを逃すわけにはいきません！



まずは、進路のこと。将来の夢や目標を持つことが大切です。そこで、自分に何ができるのか、何が好きなのか、しっかりと考えましょう。そして、2年生となった皆さんには、1年生の後輩たちの見本になる存在です。今までとは違った責任感を持って行動して下さい。また逆に自分が見習うべきこともあるかもしれません。様々なことを吸収し、自分自身の成長につなげて下さい。2年生は中間地点。これまでの学びを振り返り、自己成長につなげるチャンスもあります。定期試験や模試など真剣に取り組んでいきましょう。最後に、高校生活は楽しむことも大事です。友達と過ごす時間や、部活動や体育祭・学園祭での活動など、自分の興味や好きなことに全力で取り組んで充実した高校生活を送って下さい。この1年間をどう過ごすかで、未来が変わることかもしれません。色々なことにチャレンジしていきましょう。

「卒業」～そしてその先へ～

高校3学年主任 長塚 保彦 先生

いよいよ、高校生活最後の年になりました。3年間、あるいは内進生は6年間過ごした八王子学園での生活も今年1年間で終わりです。部活動や学校行事、受験勉強など毎日の時間を大切にして悔いのないように取り組んでください。



残念ながら人生いつもうまくいくわけではありません。しかし今年1年間できるだけ頑張ったとしたら、たとえ結果が良くなくても、「仕方ない」と比較的受け入れられるのではないかでしょうか。卒業後、振り返ったときに後悔の念をあまりもたず前に前向きに次のステップにすすめるのではないかでしょうか。「もっとやれることができたのでは…」と思い続けるのは辛いと思います。受験自体は個人個人のことありますが、友達と励ましあって受験勉強を頑張りたいですね。学校には辛さを共有しあい、悩みをうちあけ、愚痴や文句を言い合い、助け合うことができるクラスメイトがいます。状況を共有し合えることで気が少しでも楽になることでしょう。是非、みんなで良い卒業式を迎えましょう。みなさんの卒業後の進路が希望したものになるように応援したいと思います。

新任の先生方より

金井 太一 先生（社会科）



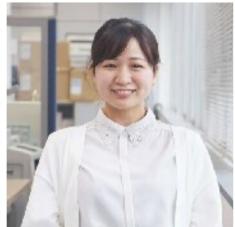
皆さん、はじめまして。今年度より八王子学園で社会科（地理・公民）を担当しています、金井太一（かないたいち）です。今年は中学2年1組の担任をしています。校内で会ったときには気軽に声をかけてください。

私は、幼いころに地図を読むことが好きでした。これがきっかけで地理が好きになり、地理好きが増えればいいなという動機で高校生の頃に教員を志しました。好きなこと・得意なことは人それぞれです。部活が好き！友達と一緒にいる時間が好き！授業が好き！といった色々な好きがあると思います。八王子学園での3年間あるいは6年間を通して、好き！得意！を見つけてみていただけたらと思います。

好きなこと・得意なことは一生モノです。私の「地理好き」は旅行の解像度を高くさせ、初対面の人との会話でも、相手の事をより深く知ることができるツールとして使えます。

私も皆さんと一緒に日々進歩できるように精進していこうと思います。どうぞよろしくお願いします。

山田 真綺 先生（国語科）



皆さん、初めまして。今年度より八王子学園でお世話になっています、国語科の山田真綺（やまだまき）です。高校2年11組の担任を務めています。校内で見かけた際には気軽に声をかけてもらえると嬉しいです。毎日、皆さんのがそれ各自の頑張る道で全力を尽くしている様子に刺激を受けながら、私も皆さんの全力にまっすぐ応えられるように成長しようと精進しています。私の学生生活を振り返ると、ずっと部活や習い事に大忙しで、とにかく余裕のない、だけど充実した日々が思い出されます。（具体的には、ジャズダンス、チアダンス、バトン、トワリング、水泳、合唱をやっていました。）そしてそんな日々の中での、楽しい思い出はもちろんのこと、仲間と衝突したこと、自分の実力不足で悔しい思いをしたこと、全ての経験が今の私を形作る大切な宝物です。皆さんにも、この八王子学園で過ごす中で、宝物をたくさん作っていってほしいと願っています。そして、その過程に私も関わっていきたいと思っています。これからよろしくお願いします！

櫻井 恵央 先生（保育科）



みなさん、こんにちは。保健体育の授業を担当している櫻井恵央です。今年度より高校2年生の所属になりました。よろしくお願いします。

私は平成29年度にこの八王子高校を卒業しました。柔道部に所属し、文武両道を目指して勉学や部活動に励んでいたわけですが、ここでの経験が今の私の根幹をなしていると思います。単に「頭がよくなつた。」「柔道が強くなつた」のみではなく、生きていくうえでもっと大切なことを得たと思います。それは“努力する習慣”です。勉強も部活動も目標にむかって努力し続けたこと。どちらも投げ出すことなく両立のために努力し続けたことで、生きていくうえでの武器—“努力する習慣”が身についたと思います。みなさんも八王子高校で自分なりの武器を身に着けてほしいと思います。それが何であるか、きっかけがどこに転がっているかはわかりません。だからこそ、すべてに全力で取り組んでもらいたいと思います。私も全力でサポートしていきたいと思います。

椎野 むつみ 先生（数学科）



みなさん初めまして。今年度より八王子学園でお世話になります数学科の椎野むつみです。所属は、中学2年生になります。初めて皆さんと会う日、どのような生徒の皆さんだろうとワクワクした気持ちと少しの不安がありました。しかし、実際に会ってみると、笑顔で元気に挨拶を返してくれてとても温かい気持ちになりました。八王子学園の皆さんには、周りの人のことを考えられるところが良いところだと感じています。授業をしていても、ほかの人の発言に温かい反応をしていて素晴らしいと思います。中学高校の3、6年間は、長いようであつという間です。かけがえのない学校生活を周りの人と助け合いながら、たくさんの学びを得てもらいたいと思います。また、積極的にいろいろなことにチャレンジしていってほしいです。私も微力ながら、皆さんの成長を全力でサポートさせていただきたいと思います。これから皆さんと関わることができる楽しみにしています。よろしくお願いします！

福田 智史 先生（国語科）



初めまして、今年度より八王子学園で国語科の授業を担当している福田智史（さとし）と申します。所属は高校2年です。着任してまだ日が浅いですが、八王子学園の規模の大きさや生徒たちのエネルギッシュさに圧倒される日々を送っています。生徒の皆さんを見ていると、ふと高校時代の自分を思い出すことがあります。放課後の教室で友達と遅くまでしゃべったり、弱小吹奏楽部で何か月も難曲と向き合ったり、好きな人に告白した時の返事で「助動詞『む』の『婉曲』ってこういうことか！」とわかつたり（要は遠回しにフラれた）…。うまくいかないことも多かったですが、そのような中でもがむしゃらにもがいていた日々が、今の自分を形作っているのだと思います。八王子学園で勉強に部活に行事に一生懸命な皆さんの姿勢は、きっと後々の人生の大きな糧になると思います。皆さんの学園生活、ひいては後の人生が輝かしいものになるよう、精一杯サポートしていきますので、よろしくお願いします。

昨年度の進路結果



2023年度大学入試は入学定員増と少子化による志願者減が追い風となり、依然として現役生中心の入試となりました。

大学側の動きとしては、昨今の時代背景から、文理の垣根を超えた「データサイエンス」系学部学科の新設や、大型の大学統合も進んでいます。

また、大学入学共通テストでは、平均点はアップしたものの、知識の活用力や、処理能力の高さが要求され、一部の科目では通常的一般選抜より難易度が高く、これまで以上の「共通テストのための」学習や対策をしっかりしていないと対応できない状況が続いています。この結果、私大専願者は一般選抜のみに向けた効率的な学習を選択する受験生が増え、私大専願者の共通テスト受験生が減少しています。

さて、本校でも現役志向がより高まり4年制大学現役進学率が84.5%でした。進学者の内訳は一般選抜が57.6%、推薦系が42.4%であり、学年の4割近い生徒が年内に進学先を決めています。また、短大・専門学校入学者は19名、就職者は0名でした。

受験生諸君は大健闘し、国公立大の34名、最難関私立大（早稲田・慶應・上智・東京理科大）の45名は過去最高の現役合格者数となりました。

一般選抜では、文系生は特進クラスから一橋大3年連続現役合格、東京外国语大をはじめ、選抜クラスでは、教員養成系を目指した生徒が担任の先生と二人三脚での対策が実を結び都留文科大に、進学クラスからも早慶大に複数名が合格しました。また、総合コースからは、野球部の生徒が引退後の夏から本格的な受験勉強を始めて明治大に、美術系の生徒が東京芸術大に合格するなど健闘が目立ちました。また、理系生は理工系で東京農工大、電気通信大、横浜国立大、東京都立大といった首都圏国公立大や早稲田大に合格し、医歯薬看護系では信州大医学部、私大医学部、東北大歯学部、慶應義塾大薬学部・看護医療学部といった最難関大に合格を果たしました。

推薦系では、指定校推薦以外の公募推薦や総合型選抜で國立大や早稲田大、上智大などの最難関大に合格しました。また、北里大、東京薬科大をはじめとする薬学部の躍進も目立ちました。

令和4年度卒業生諸君は、高校入学直後の4、5月が家庭学習となり、高校3年間コロナ禍での制約を受けた学年でしたが、その逆境を跳ねのけて一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜を問わず、自分の目標をきちんと打ち立てて努力遂行できた学年がありました。進路指導室学習スペースでも集中して自学自習に勤しむ姿が見られましたし、制約の中でも積極的に登校して過去問演習に努力する「常連」生徒が多かった学年でした。

現高3生も新設の4階の自習室をはじめ、さまざまなコース・クラスの生徒が放課後に学校での学習に励み、スタサブも積極的に活用してくれています。また、進路カウンセラーの濱中先生への相談も多くなっています。低学年の1、2年生の利用も目立ちます。是非とも先輩たちに続いて欲しいと思います。

進路指導部長 高橋 史郎

●進路決定率の推移

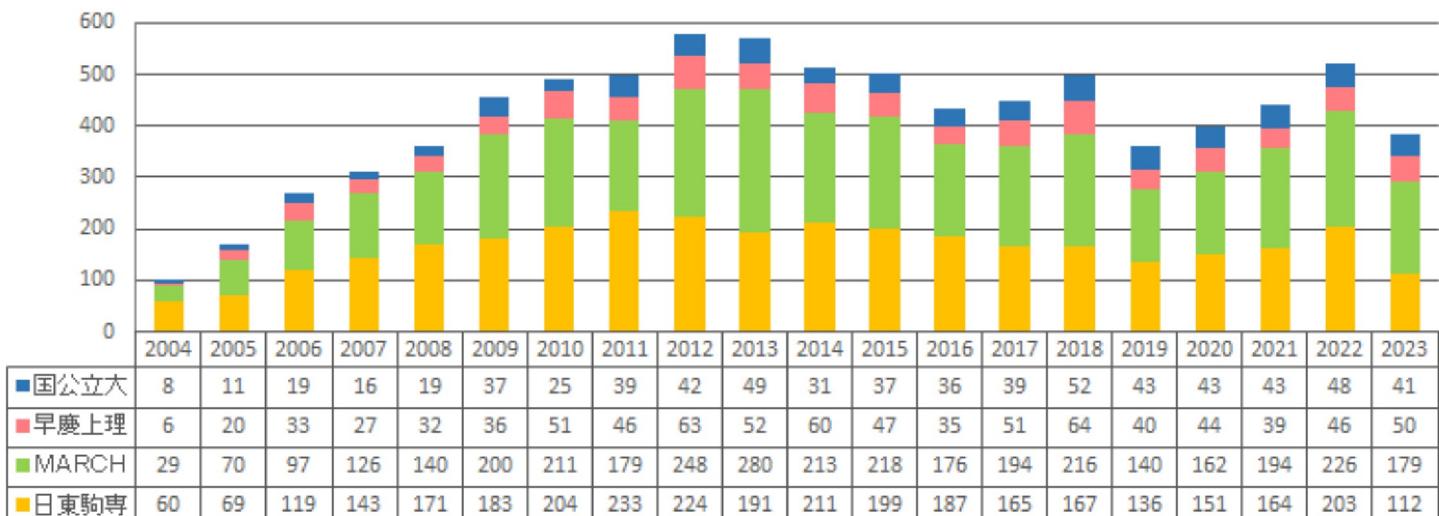
種別\入試年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
大学進学率(入学率)	68.4	65.6	70.7	71.7	79.0	80.4	84.7
短大進学率(入学率)	1.7	1.5	0.6	1.3	0.8	1.0	0.8
専門学校進学率(入学率)	1.9	4.9	3.9	2.3	5.4	4.0	3.1
就職決定者数(希望者数)	2(2)	4(4)	2(2)	0(0)	2(2)	4(4)	0(0)

●2023年3月卒業生 進路内訳

区分	男子	女子	合計
	四年制大学	短期大学	専門学校
進学	177 (82.33%)	232 (86.57%)	409 (84.68%)
就職	0 (0.00%)	4 (1.49%)	4 (0.83%)
進路未定	5 (2.33%)	10 (3.73%)	15 (3.11%)
卒業生合計	34 (15.81%)	21 (7.84%)	55 (11.39%)
	215 (100%)	268 (100%)	483 (100%)

※大学入学共通テスト出願者数:335名

●大学合格者数推移



※全ての数値は4月当初時点の判明分であり、変動する場合があります。

中学 学年別校外学習

中学各学年で4月28日（金）に校外学習が行われました。天候にも恵まれ、学年・クラスの親睦を深めるとともに、充実したフィールドワークの1日となりました。

●中学1年：高尾山（自然観察・食育・探究）



●中学2年：鎌倉（班別行動練習・探究）



●中学3年：TGG (TOKYO GLOBAL GATEWAY) (実践的語学研修)



•川越コース (1・3・4・5・12組)



高校1年生 日帰り旅行

2023年
4月28日(金)

•横須賀コース (2・6組)



●ほうとうづくりコース (9・11・13・14組)



4月28日（金）、高校1年生の日帰り旅行が行われました。相互交流を目的として実施されるこの日帰り旅行。14クラスが4方面のコースに分かれ、気持ちの良い天候のもとで親睦を深めることができました。人気スポットを撮影しながらチームごとに得点を競う「フォトロゲイニング体験」を取り入れたコースもあり、高校生活の最初の思い出を作ることが出来ました。



●浅草コース (7・8・10組)



教員という職業を目指されたきっかけは？

古閑 志緒里 先生



絶対的な理由がなくて、小さな理由は沢山あるんですけども、その中で、小学校5年生の時の担任の先生がすごく気にかけてくださって、例えば音読帳とかでコメントを毎回書かなくてはいけなかった時に、必ず自分が書いたこと以上のコメントを返してくれたりとか。後は持久走大会というのがあって、うまくいかなくて残念な成績になってしまったときに、それを絵日記に描いたんですよ。でもその先生が「頑張っているところはちゃんと分かってたよ」っていうふうに返してくれたのがすごく嬉しくて。「こういう女性になりたいな」って。その女性が「先生」という職業に就いているから「ああ、先生っていいな」って思って。それが一つの私の中の理由なのかなって思います。

何か他の職業に就きたいというのではなく、ずっと教員志望だったんですか？

実は色々な職業に就きたくて（笑）まずは漫画家に。中学生になって、アニメにドハマリしてしまって。スポーツ系のアニメが好きだったんですよ。そこから声優とか。で、委員会が放送部に入っていたというのがあって、放送部で朗読コンテストみたいのに出たんですよ。それがうまくいって全国大会までいけたときは、アナウンサーとか声にまつわる仕事に就きたいなと思うたり。中学時代はそういう表現をする仕事に就きたいなって思っていました。

なるほど。聞き取りやすさって我々にもすごく必要なスキルですよね。国語の先生になられたきっかけは？

そうですね・・・もう本当に一言で言えば「ご縁」ですね。最初はそれこそ国語の先生になろうとは思っていないかったんですよ。ただ、高1の情報の授業で「自分の将来の夢をパワポで作る」というものがあって、そのときのUSBをまたま開けてみたら、そこに「将来の夢：社会科の教員・国語科の教員」と書いてあったんですよ！社会科はちょっとびっくりしたんですが（笑）、国語は昔から本を読むのが好きだったので、純粋に好きな科目という理由ですね。本当に今国語科の教員として勤めているのが、学生の時の自分からは想像がつかなくて。書道を専門的にやってきましたし、免許も主免許が書道で、副免許が国語なんですよ。

そうなんですね！書道はいつから？

本格的に始めたのが高校だったと思います。小学2年生から書道教室には通っていたんですけど、そこではいわゆる書写的な先生のお手本があって、それをそっくりに書くということをやってきて、高校の書道部に入ってから、ただ単にお手本を真似るだけではなくて、そこに自分の感情を込めるという表現の領域をやり始めました。

先生はすごく板書がきれいですよね。あと、授業で心掛けていることはありますか？

自信が無いことは言わないようにしています。予習をしていて大丈夫と思っても、教壇に立って話している最中に「あれ？この場合ってここで合ってるんだっけ？」とかちょっとでも不安になってしまったことは不安なまま言わないというのは心掛けています。実は1~2年目のときはすごく気を張っていて、「何でも分からなくちゃ」と思っていて。もちろん生徒から質問された時にその場でぱっと答えられるのがベストだと思うんですけども、どうしても言えない時があるので、そういう時は「次回ね。私ちょっと知識不足だったし、きちんと確認した上でお伝えするからね。」と言った上で、返すようにしています。

誠実ですね！国語や書道の、教科としての魅力は？

面白さで言えば、国語は色々な人生を追体験できるところ。自分では絶対経験しないような人生をその作品を扱っている時は体験できるわけなので。そこがすごく面白いなって思います。書道は、本当に、なんでしょうね・・・芸術っていうか表現の世界なので、これが絶対っていうものが無くて。この人は「いい」と思ったことでも、別の人も「いい」と思うとは限らないじゃないですか。万人に受けるということが不可能で、でもたった一人に刺されればそれが結果として表れることがある。必ずしも努力が勝つわけではないところに魅力を感じています。大学でも、専門のコースから書道学科に来るような子もいれば、高校時代は未経験で、授業で面白かったからちょっとやってみようと思って入って来た子もいるんですね。でも、圧倒的に練習量も知識量も違うのに、展覧会に出した時には未経験の子が上回ってしまう時があるんですよ。才能というかセンスみたいなものが否めないところも、悔しいけれど興味深いところですね。

芸術って結構報われないことが多いんですよね…先生は休日何をされていますか？

本当に包み隠さず言えば、寝てます（笑）後は、本当に元気な時には上野の東京国立博物館に行って書を鑑賞しています。教科書に載っていたものの本物が飾られているというのはすごく感動します！「実際にはこんなに大きいんだ」とか、それこそ字のかすれとか、「こんなところに墨が落ちた跡があるんだ」とか「紙はこういうものだったんだ」とか。

やはり本物じゃないと無い情報がありますよね…最後に、生徒へのメッセージを何かお願いします。

芸能とかのオーディションでも、だいたい10代とか、25歳くらいが多分マックスだと思うんですよね。「何歳から始めても間に合うよ」という考え方も前向きでいいなとは思うんですけども、何かやりたいと思ったときに、今まだそれができる年齢であることを大事にしてほしいというか、その貴重さを大事にして過ごしてほしいですね。始めるならできるだけ早い方がいいと思うし、昔と比べて情報収集しやすくなっているので、ありとあらゆる手段を使って、やりたいことをやる努力をすることが高校生活で大事なんじゃないかなと思います。「大学に入ったらやろう」とか「就職したらやってみよう」とか、やりたいことを後回しにしていると、いつの間にか目指すことすらもできなくなってしまっている時もあるので、まだ皆さんは何でも目指せる時期なので、その時間の貴重さを噛みしめてほしいなって思います！

古閑先生ありがとうございました(^▽^)/